

# ESCEM—関西大学 日仏シンポジウム 「持続的発展—経済と文化—」について

亀井克之  
関西大学社会安全学部教授

## はじめに

関西大学経済・政治研究所主催により、平成24年度関西大学国際交流助成基金による国際シンポジウムとして、ESCEM—関西大学 日仏シンポジウム「持続的発展—経済と文化—」*Développement durable -économique et culturel-*が開催された。本稿では、その概要を紹介する。

## 1 シンポジウム概要

本シンポジウムは、フランスのビジネススクールESCEMとの協定締結を記念して、2012年6月28日（木）に関西大学千里山キャンパス尚文館において、下記の通り開催された。

平成24年度 関西大学 国際交流助成基金による国際シンポジウム

持続的発展 —経済と文化—*Développement durable -économique et culturel-*

ESCEM—関西大学 日仏シンポジウム

主催 関西大学 経済・政治研究所

※本シンポジウムは科学研究費補助金 基盤研究（C）

「中小企業の事業承継に関する日仏共同研究を通じた事業承継リスクマネジメントの提案」（研究代表者 亀井克之）の成果の一部である。

日 時：2012年6月28日（木）13:00–17:00

場 所：関西大学 千里山キャンパス 尚文館 1階 マルチメディアAV大教室  
高槻ミュージックキャンパス M602 教室へ中継

プログラム：挨拶 楠見晴重（関西大学学長）

水野一郎（関西大学経済・政治研究所所長）

13:10-14:30 第一部（日本語）持続的発展 ―文化―

「日仏交流と関西大学」 大久保朝憲（関西大学 文学部）

「ESCEMと日仏交流」 レモン洋子（ESCEM）

スピーチ・セッション：日本留学中のフランス人学生とフランスに留学した関西大学学生・院生

コーディネーター 友谷知己（関西大学 文学部）

14:30-14:45 休憩

14:45-15:45 第二部（フランス語）持続的発展 ―経済― CSR：企業の社会的責任

「CSRは経営戦略となりえるか？」 リシャル・ソパルノ（ESCEM）

通訳 菊地歌子（関西大学 外国語学部）

高槻ミューズキャンパス M602 教室から中継によるコメント

高野一彦（関西大学 社会安全学部）

15:45-16:45 「マーケティング活動のCSRへの貢献について」

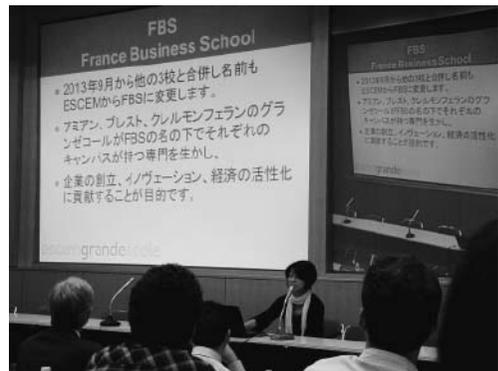
エリック・ステヴェンス（ESCEM）

通訳・コーディネーター 亀井克之（関西大学 社会安全学部）

16:45-17:00 閉会の辞 亀井克之（シンポジウム実行委員長）

## 2 第一部（日本語）持続的発展 ―文化― ①協定大学紹介

第一部のコーディネーターと一部通訳を文学部の友谷友己教授が務めた。第一部前半では、まず本学文学部の大久保朝憲教授が、「日仏交流と関西大学」と題する講演を行い、関西大学とフランスの協定大学について紹介した。関西大学は、パリ第3大学、アンジェ西カトリック大学、パリ第7大学、そしてESCEMという4つの協定校をフランスに持つ。



次にESCEMにおける日本語教育と日本との交流プログラムの責任者であるレモン洋子氏が、「ESCEMと日仏交流」と題する講演を行い、ESCEMについて紹介した。

### 3 第一部（日本語）持続的発展 —文化— ②スピーチ・セッション

第一部後半では、関西大学に留学中のフランス語圏の協定大学からの留学生と、フランスの協定大学に留学した関西大学学生・大学院生によるスピーチ・セッションを実施した。これは、関西大学とフランス語圏の大学との学生交換派遣の進展を実感できる内容で、きわめて有意義な企画となった。

スピーチ・セッションに登壇したのは次の留学生・学生・院生である。

マクシム・バルディオール（ルーヴェン大学）

橋野勇一（パリ第3大学へ留学）

森田梨花（パリ第7大学へ留学）

アラン・トゥーレ（パリ第7大学）

エリック・エレン（ESCEM）

藤岡亜美（パリ第3大学へ留学）

ヘビン・ファン（パリ第3大学）

ビクトール・ビエレル（パリ第3大学）



#### 4 第二部（フランス語）持続的発展 — 経済 — CSR：企業の社会的責任

第二部では、CSR：企業の社会的責任をテーマにして、ビジネス・スクールであるECCMの教授2人が講演を行った。まずリシャル・ソプラノ教授が「CSRは経営戦略となりえるか？」と題する講演を行い、本学外国語学部の菊地歌子教授が通訳を務めた。この講演の後、本シンポジウムが中継された高槻ミューズキャンパスM602教室から社会安全学部の高野一彦教授がコメンテーターを務めた。次に、エリック・ステヴェンス教授が「マーケティング活動のCSRへの貢献について」と題する講演を行い、筆者が、第二部全体のコーディネーターを兼ねて、通訳を行った。



高槻ミューズキャンパスからの中継

#### 5 シンポジウムの意義

本シンポジウムは、以下の成果をあげた。

- (1) フランスの協定校と開催する初めての全学規模での国際シンポジウムとなった。
- (2) フランスの協定校から研究者2名と国際交流担当者1名を招くことができた。
- (3) フランスの協定校との交換派遣事業を推進する上で有意義な企画を実現した。

\*具体的には、第一に関西大学の教員によるフランスの協定校の紹介とECCMの担当者によるECCMの紹介セッションを実施した。第二に日本に留学中のフランス語圏協定校からの留学生とフランスの協定校に留学した経験を持つ関西大学学生と院生が登壇してスピーチ・セッションを実施した。

- (4) 第一部は文化に焦点をあてて協定校紹介と留学文化についてのスピーチ・セッションとし、第二部は経営学に焦点をあてて招へいた経営学研究者2名の講演とした結果、全体として均衡のとれた企画となった。
- (5) ECCMは関西大学が協定を結んだ初めての欧米のビジネススクールと言える存在であ

り、こうした特徴を持つ協定校といち早く研究交流を実現した。

(6) 千里山キャンパスと高槻ミュージズキャンパス間における国際シンポジウムの中継を実現した。

## むすび

ESCEMはフランスの高等教育制度の中で、大学（ユニベルシテ）より上位に位置づけられる大学校（グランゼコル）の一つである。ESCEMのような商科系のグラン・ゼコル、米国流に言えばビジネス・スクールは、ユニベルシテの経営学部より一般に高度な教育が展開され、難易度の高い入試が行われる。

本シンポジウム第一部で、ESCEMのレモン洋子氏が講演の中で説明されたように、ツールを本拠とするビジネススクール（商科系グラン・ゼコル）であるESCEMは、2012年にアミアン、プレスト、クレルモン・フェランという3つの都市のビジネススクールと合併した。4校合併により、名称が「フランス・ビジネススクール（France Business School）」となった。今後、ESCEMを母体の一つとするフランス・ビジネススクールはランキングを上げ、フランスのビジネス教育・研究機関として存在感を増していくことが予想される。また、他のフランス語圏の協定大学と同様に、関西大学との教育・研究の両面での交流を発展させていくことが期待される。

